

大崎町水道事業経営戦略

2019年度～2028年度

平成31年2月

大崎町水道事業

目 次

第1章 策定の趣旨

- 1 経営戦略策定の背景と目的
- 2 計画期間
- 3 経営戦略の位置付け

第2章 水道事業の現状と課題

- 1 事業の状況
- 2 水需要の状況と見通し
- 3 施設の状況
- 4 経営の状況と見通し
- 5 組織の将来見通しと人材育成状況
- 6 事業の課題
- 7 経営健全化の取り組み状況

第3章 経営戦略の基本理念と方向性

- 1 経営戦略の基本理念
- 2 経営戦略の方向性

第4章 水道事業の効率化・健全化への取り組み

- 1 経営基盤の強化
- 2 投資の合理化
- 3 水道の安定供給体制の確保

第5章 投資・財政計画

- 1 施設整備計画
- 2 管路更新計画
- 3 中長期の投資額
- 4 財源試算
- 5 投資・財政計画

第6章 計画の点検と進捗管理

- 1 経営戦略指標
- 2 計画の推進と点検・進捗管理の方法

策 定 第1章
の 趣 旨

第1章 策定の趣旨

1 経営戦略策定の背景と目的

大崎町水道事業は、住民生活に必要不可欠な「水」を提供するライフラインとして、昭和32年(1957年)3月に野方地区簡易水道が創設され、翌年昭和33年(1958年)3月に上水道事業、昭和53年(1978年)3月に水之谷地区簡易水道が創設されました。

給水開始して以来、幾度もの拡張工事を実施し、市民の皆様に安全で安心な水道水を供給してきました。

現在、人口減少や節水機器の普及などにより水需要が減少し、水道事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、高度成長期に整備した多くの水道施設の老朽化が進み、今後、施設の更新や耐震化には多大な費用が見込まれます。

このような状況に対応し、水道施設等の計画的な更新を進め、施設や管路の健全性を維持していくと同時に、投資費用の合理化を図るため、「投資資産」と「財政試算」を均衡させた収支計画を策定し、将来にわたって安定的に事業を持続することが可能となるように、中期的な視点から経営基盤の強化と経営の健全化を図るため経営戦略を策定するものです。

2 計画期間

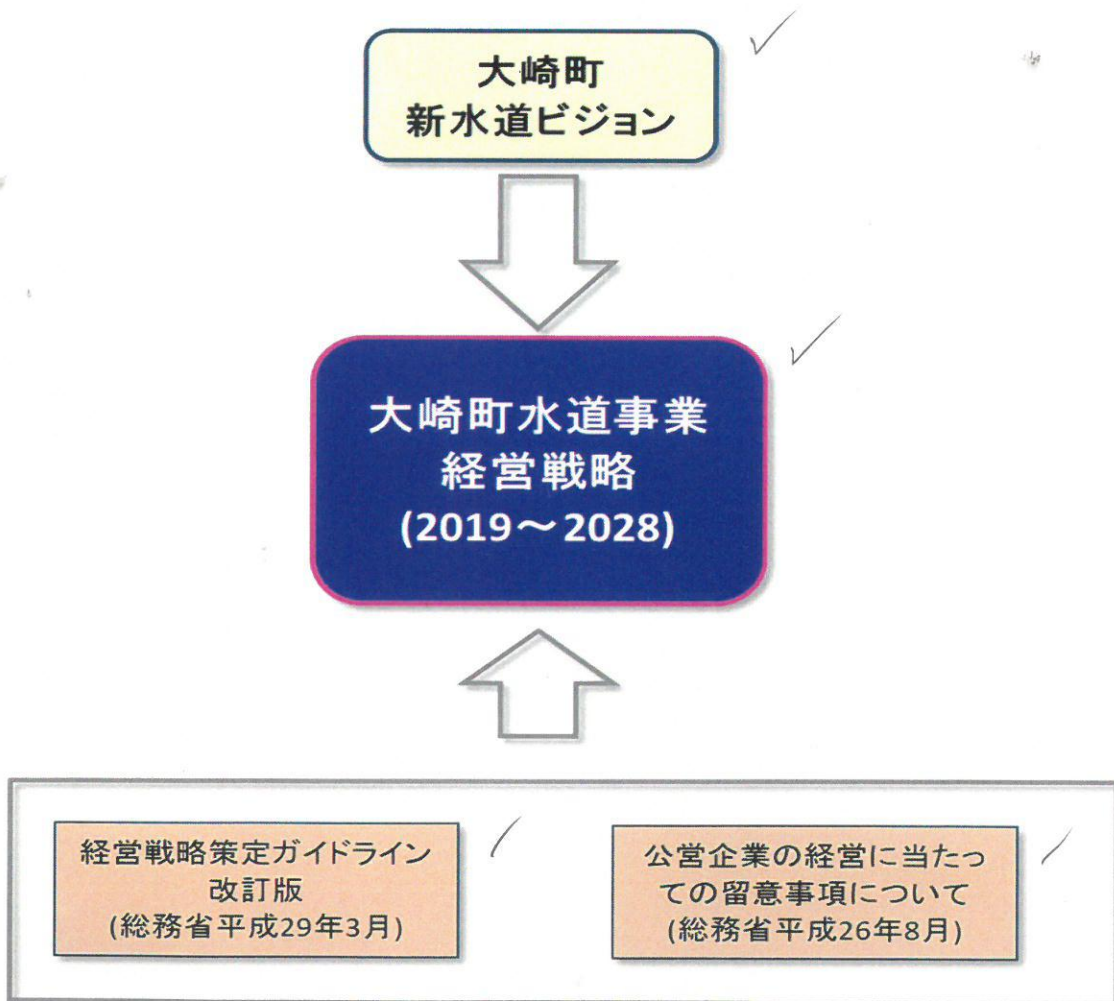
2019年度～2028年度) (10年間) ✓
R1(H31)～R10

3 経営戦略の位置付け

本計画は、大崎町水道事業が進むべき方向として中期的な事業運営の方針を示したものです。

公営企業を取り巻く環境が、「事業・サービス拡充期」から「人口減少社会、インフラ強靱化・更新・縮小時代」へと転換する中で、経営革新や経営判断に必要な損益の認識、資産・負債の把握等を正確に行い、中期的な視点から経営の健全化と経営基盤の強化、さらに財政マネジメントの向上に取り組むことが求められています。

これらの事業環境の変化に対応するため、大崎町新水道ビジョンとの整合を図りながら、総務省から示されている「公営企業の経営に当たっての留意事項について」(平成26年8月29日)並びに「経営戦略策定ガイドライン 改訂版」(平成29年3月)に沿って、施設等更新計画を踏まえた投資費用の試算結果に基づき「経営戦略」を策定しました。



第2章 水道事業の現状と課題

第2章 水道事業の現状と課題

1 事業の状況

(1) 給水

- ・ 供用開始年月日・・・昭和33年(1958年)4月1日
- ・ 地方公営企業法の適用・・・適用
- ・ 現在給水人口、計画給水人口及び計画給水量

表 1. 現在給水人口、計画給水人口及び計画給水量(平成29年4月1日現在)

水道事業名	現在給水人口	計画給水人口	計画給水量
大崎町上水道事業	11,365人	14,870人	4,644 m ³ /日
野方地区簡易水道事業	1,854人	3,000人	1,445 m ³ /日
水之谷地区簡易水道事業	152人	400人	170 m ³ /日
計	13,371人	18,270人	6,259 m ³ /日

(2) 施設

- ・ 水源・・・10箇所(地下水、湧水)
- ・ 配水池設置数・・・10箇所
- ・ 配水池貯水能力・・・8,189 m³
- ・ 管路延長・・・269.8 km
- ・ 施設利用率[a]・・・51.22%

[a]施設利用率：配水能力に対する配水量の割合（一日平均配水量/配水能力×100）で、施設利用状況を総合的に判断する指数。平均利用率を表す。

(3) 料金

大崎町の料金体系は、基本料金と水量（従量）料金の二部料金制で、逓増料金制を採用しています。

表 2. 水道料金表（税抜き）

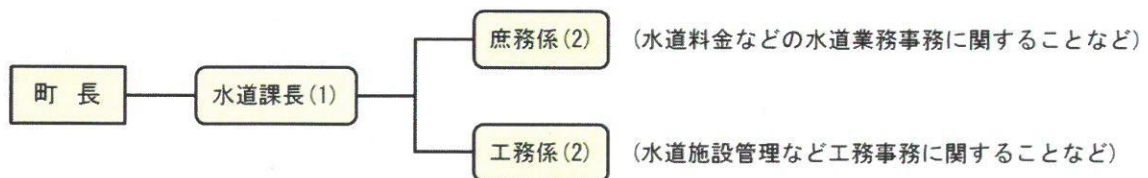
料金区分		基本料金		超過料金	
		水量	金額		
専用栓	一般用	量水器口径 13m/m	10立方メートル	1,420円	計量水量10立方メートルを超えた水量1立方メートルにつき140円 ✓
		20m/m	10立方メートル	2,120円	
		25m/m	10立方メートル	2,660円	
		40m/m	0立方メートル	5,420円	
		50m/m	0立方メートル	8,200円	
	75m/m	0立方メートル	20,400円	計量水量1立方メートルにつき140円	
	臨時用		10立方メートル	1,900円	計量水量1立方メートルにつき280円 ✓
共用栓		一戸当たり	10立方メートル	1,420円	計量水量一戸当り10立方メートルを超えた1立方メートルにつき140円

(4) 組織

水道課職員は、水道課長以下5名で業務を行っています。

R2 庶務 2 + 課長 1
工務 3

図 1. 職員体制(平成 29 年 4 月 1 日現在)



2 水需要の状況と見通し

1) 給水人口と給水量の推移

(1) 給水人口

大崎町人口ビジョンによると、本町の総人口は昭和 60 年(1985 年)の 17,689 人をピークに減少傾向が続き、平成 28 年度には 13,491 人となり、ピーク時から約 23%減少しました。

今後も減少傾向は続き、2028 年には 12,013 人と現在の九割ほどになると推計されています。

給水人口もまた減少傾向にあり、将来の推計では、10年後の2028年には、11,200 人と現在の 11%の減少になる見込みです。

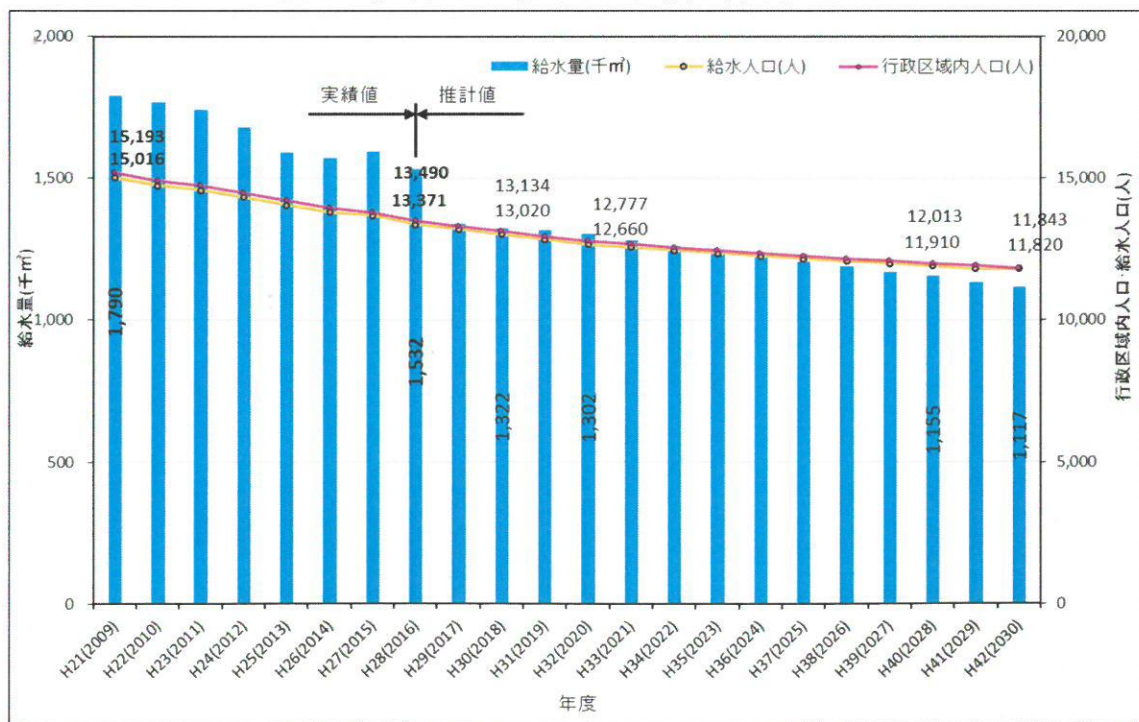
(2) 給水量

年間給水量は、給水人口と同じように減少傾向にあります。

人口減少に加え節水機器の普及などによる節水意識の高まりも大きく影響していると考えられます。

将来の給水量の推計では、10年後の2028年には、1,152 千 m^3 /年と現在の 24%の減少になる見込みです。

図 2. 給水人口と給水量の実績と将来見通し

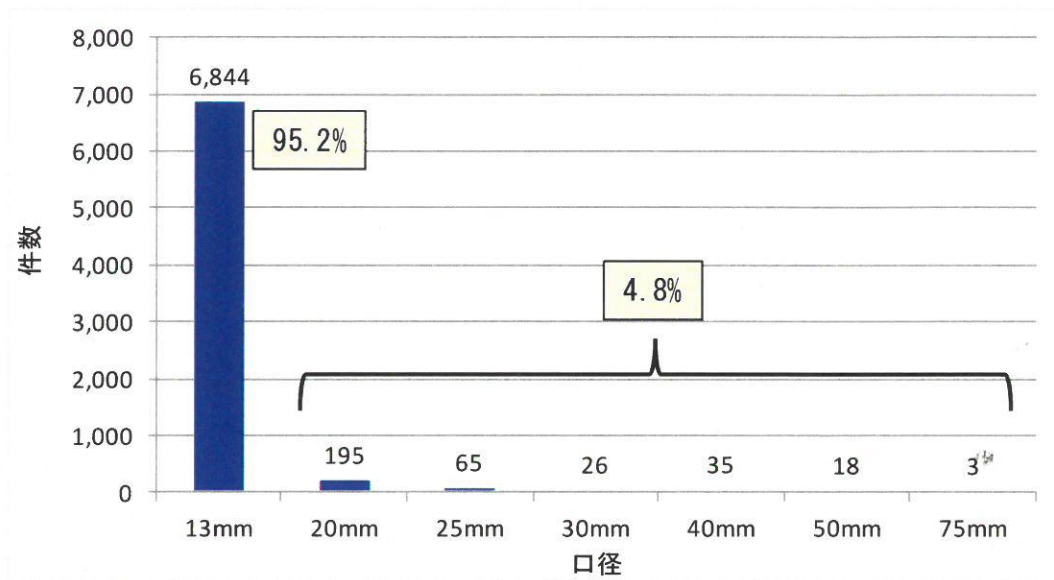


2) 水利用の状況

(1) 件数の分析

口径別の件数は、主に個人利用の口径 13mm が全体の 95.2% を占め、残り 4.8% は店舗、病院、学校、官公署等の利用となっています。

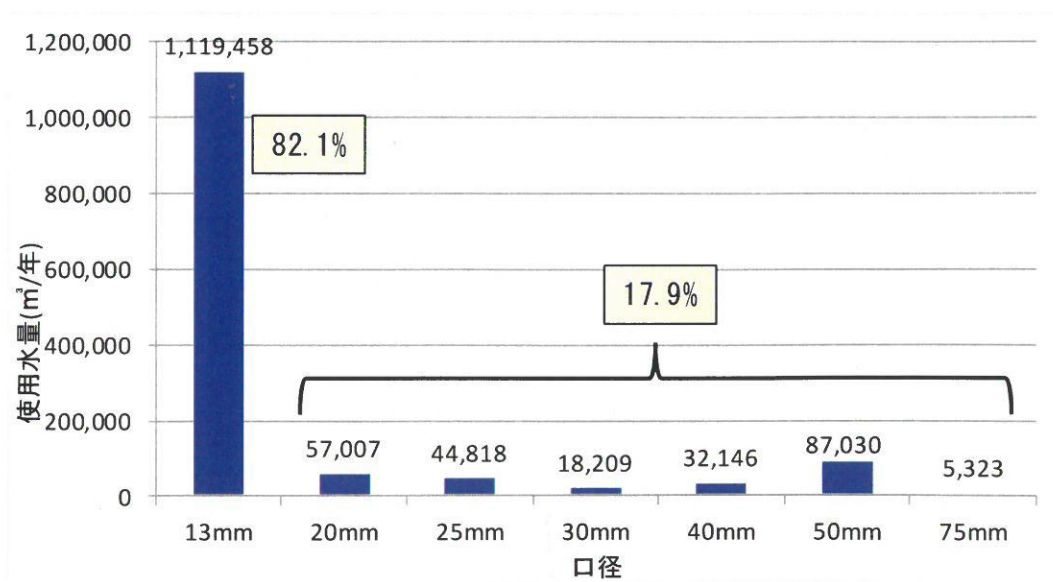
図 3. 口径別件数(平成 28 年度)



(2) 使用水量の分析

口径別の使用水量は、主に個人使用の口径 13mm が 82.1% を占め、残り 17.9% は店舗、病院、学校、官公署等が使用されています。

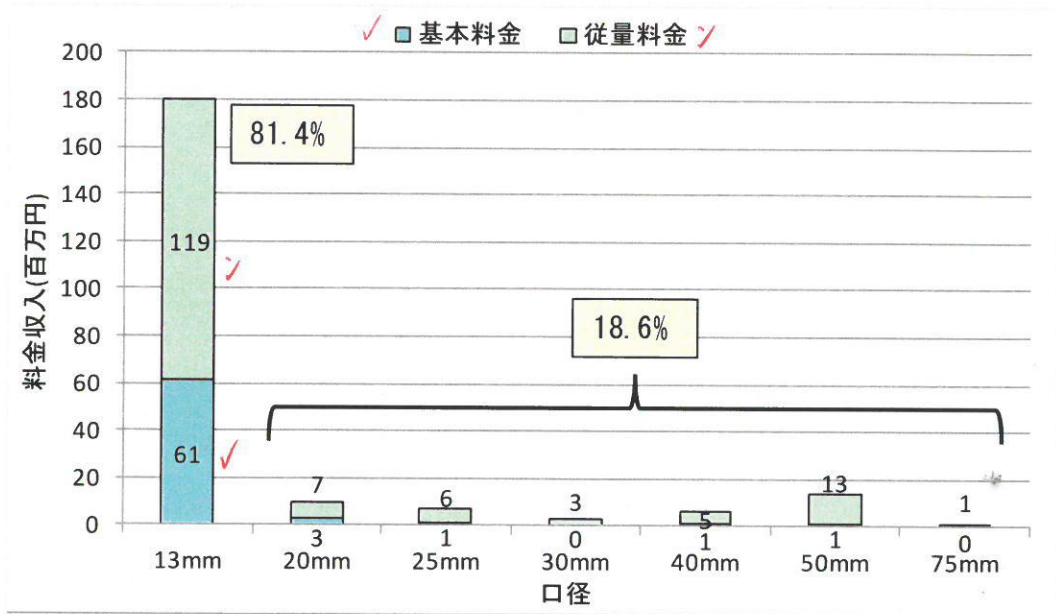
図 4. 口径別使用水量(平成 28 年度)



(3) 料金収入の分析

口径別の料金収入は、主に個人利用の口径 13mm が 81.4%を占め、残り 18.6%は店舗、病院、学校、官公署等が占めています。

図 5. 口径別料金収入(平成 28 年度)



3 施設の状況（平成 29 年 4 月 1 日現在）

1) 水道施設の状況

水道施設は、順次更新をしてきましたが、昭和 40 年代に建設された施設も数多く残っています。老朽化が顕著なものも見られるため、今後、耐震化への対応も含め、施設更新に計画的に取り組む必要があります。／

(1) 取水施設

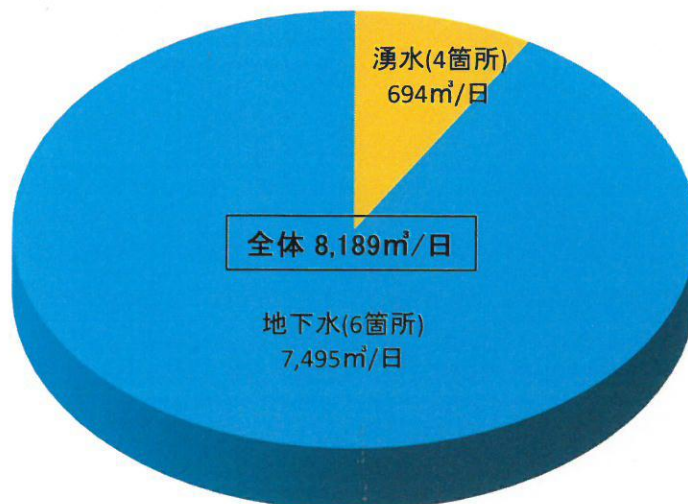
大崎町の水道水源は、10 箇所あり、全て自己水源でまかなっています。

水源の種別は、湧水 4 箇所(計画取水量 694 m³/日)、地下水 6 箇所(計画取水量 7,495 m³/日)となっています。

表 3. 水源施設の状況

水源施設内訳							
水源名	水源種別	限界取水量 (m ³ /日)	取水可能量 (m ³ /日)	計画取水量 (m ³ /日)	割合 (%)	建設年度	経過(年) 2017現在
中山第一水源	湧水		2,450	50	0.6%	S.34(1959)	58
中山第二水源	湧水		550	24	0.3%	S.50(1975)	42
中山第三水源(深井戸)	地下水		806	500	6.1%	H.12(2000)	17
菱田第一(深井戸)	地下水		2,160	1,000	12.2%	S.54(1979)	38
菱田第二(深井戸)	地下水		2,160	1,000	12.2%	S.54(1979)	38
岡別府第一(深井戸)	地下水		2,500	2,000	24.4%	H.2(1990)	27
永吉(深井戸)	地下水		3,000	2,000	24.4%	H.14(2002)	15
東川	湧水		450	450	5.5%	S.33(1958)	59
倉元(深井戸)	地下水		1,066	995	12.2%	H.8(1996)	21
籠谷	湧水		6,000	170	2.1%	S.54(1979)	38
計			21,142	8,189	100.0%		
水源種別	湧水	4	9,450	694	8.0%		
	地下水	6	11,692	7,495	92.0%		
	計	10	21,142	8,189	100.0%		

図 6. 水源内訳



(2) 配水施設

配水施設は合計 10 箇所(上水道事業 7 箇所、簡易水道事業 3 箇所)あり、総容量が 5,649.0 m³です。なお、計画 1 日最大給水量 8,189 m³/日に対して 17.4 時間分の貯水能力を確保しています。

表 4. 配水施設の状況

配水施設内訳						
配水池名	構造	数量	有効容量 (m ³)	割合 (%)	建設年度	経過(年) 2017現在
大佐土原	RC	1	225	4.0%	H. 2(1990)	27
立小野配水池	RC	1	110	1.9%	H. 2(1990)	27
西ノ上配水池	RC	1	479	8.5%	S.54(1979)	38
永吉配水池	SUS	1	500	8.9%	H.14(2002)	15
鳥越配水池	PC	1	2,000	35.3%	H. 2(1990)	27
中沖高架水槽	RC	1	185	3.3%	S.54(1979)	38
菱田配水池	PC	1	1,000	17.7%	S.54(1979)	38
荒佐配水池	PC	1	1,000	17.7%	H. 7(1995)	22
籠谷配水池	RC	1	130	2.3%	S.54(1979)	38
水ノ谷配水池	RC	1	20	0.4%	S.54(1979)	38
計			5,649.0	100.0%		
水源種別	PC	3	4,000	71.0%		
	RC	6	1,149	20.0%		
	SUS	1	500	9.0%		
	計	10	5,649	100.0%		